

おもしろいカメムシの世界

世の中には変わった人々がいるもので、あの嫌な臭いを発生するカメムシをこよなく愛する人がいる……と言いながら、私も嫌いではない。

一部のカメムシはカラフルで見惚れてしまう種類がいたりして、ついあちらこちらを探してしまう。見つけてカメラを近づけても飛んで逃げたりしない種が多いので、被写体としてありがたい存在でもある。あの臭いがあるから、だれも手を出さないだろうとカメムシは高をくくっているかもしれないが、実はカメムシ本人（本虫？）にとっても有害らしい。

なかには他の地方から、はるばる旅をしてきた種類がいて常に見ることができるというわけではない。そんな種類に出合った時は特別な感動を感じる。

右2枚幼虫→



成虫→



キマダラカメムシ（カメムシ科）

地球温暖化によって南のほうから十数年前に福田へやってきた。繁殖力が強く今では関東地方まで繁殖が広がっている。桜の木などで普通にみられる



クサギカメムシの幼虫 (カメムシ科)



クサギカメムシの成虫

カメムシといえば、まずこのクサギカメムシが頭に浮かぶ。越冬のため室内に入ってくることがある。



エビイロカメムシの幼虫 (カメムシ科)

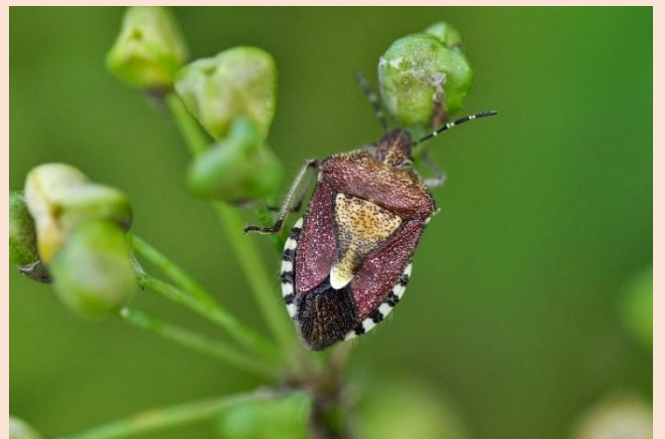


エビイロカメムシの成虫

イネ科植物の葉の上でよく見かける。派手な色をした幼虫はよく目立つ。



ブチヒゲカメムシの幼虫 (カメムシ科)



ブチヒゲカメムシの成虫

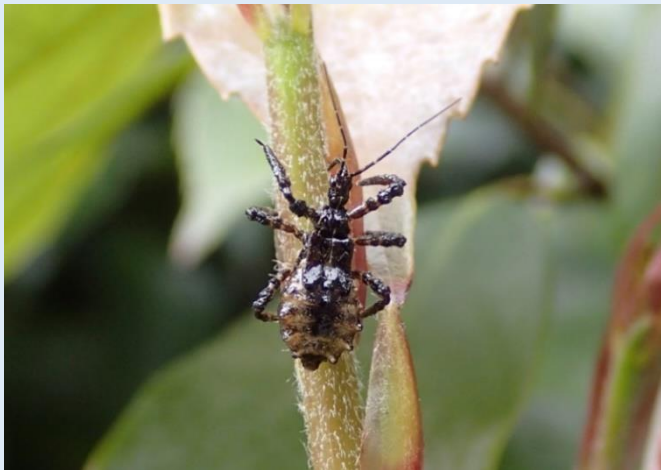
体に柔らかい毛が生えていて、胸の白黒のブチ模様から名前の由来になっている。

以上、いかにもカメムシらしい形をしている。特にクサギカメムシは外に干した物について部屋に入ってくるので、特に嫌われている種。臭いもかなり強烈だが、刺激を与えなければそれほどでもないで、ティッシュペーパーなどでそっとくるんで逃がしたらよいと思う。

サシガメ科の仲間は他の昆虫を捕まえて体液を吸う、そのため長い口吻^{こうぶん}を持っている。うっかり触ったりすると刺されることがあるので要注意である。



ヨコヅナサシガメの幼虫 (サシガメ科) **ヨコヅナサシガメの成虫**
赤い色も、成虫になるにしたがって黒くなる。名の通りサシガメの仲間では日本最大級である。



ヤニサシガメの幼虫 (サシガメ科) **ヤニサシガメの成虫**
幼虫も成虫と同じように足にコブが目立つ。ヤニ…松ヤニなどを身にまとうので、この名がついた。



オオトビサシガメの幼虫 (サシガメ科) **オオトビサシガメ**の成虫
成虫とは似ても似つかぬ姿をしている。カメムシ類は姿が親子で全く違うものが多い。

以下は変わった形や美しい色をした種類を選んでみた。



アカシマサシガメ (サシガメ科)

赤と黒のコントラストが美しい、めったに見ないが、見つけたときは「ヤッター」という気持ちになる。



アカスジキンカメムシ（キンカメムシ科）
 ここでは小さな画像であるが、一見の価値がある美しいカメムシである。



エサキモンキツノカメムシ（ツノカメムシ科）
 背中ハートのマークが目立つ。見つけたら少しは幸せになれるかな。



アカスジカスミカメ（カスミカメムシ科）
 可愛くてちょっときれいなカメムシではあるが、イネの害虫として嫌われ者である



ウシカメムシ（カメムシ科）
 名前（和名）は胸の突起を牛の角に見立てて付けられた。



アカスジカメムシ（カメムシ科）

アカシマサシガメ同様に、赤と黒の模様がとにかくよく目立つ。こちらもなかなか見つけることが難しい種である。



オオキンカメムシ (キンカメムシ科)

なかなか目にすることができない珍しい種類である。そもそも福田では繁殖をしていない。遠くからやってきて、すぐどこかへ移動してしまうので見た人は少ないと思う。私も自宅近くで偶然、撮影できたことを幸運に感じたものである。図鑑などでは沿岸部に生息していると記されており、行動範囲はかなり広いらしい。



オオクロトビカスミカメ (カスミカメムシ科)

2、3ミリ以下の小さなカメムシ、しかし、オオ…と名がついている、仲間にもっと小さい種類がいるということであろう。



オオホシカメムシ (オオホシカメムシ科)

多くの種類でよく似た模様がついたものがある。よく見ないと間違ってしまうそうである。



ツヤアオカメムシ（カメムシ科）

緑一色の美しいカメムシである。同じような色をしたものが数種いるが、こちらは全体ツヤがあるので他と区別しやすい。桃や柿、ミカンの害虫であり、スギやヒノキの球果を餌としている。

この他にも多くの種類が福田に生息している。改めて、この地の生物多様性を感じるとともに、いつまでもこの環境が保たれることを願っている。しかし、今回の西日本豪雨（2018年7月）のように地形が変わるほどの災害に遭うと、生態にも影響が出るかもしれない。できることならこんな災害は二度と起きてほしくないものである。

赤木賢治通信員